

鹿屋市まち・ひと・しごと創生 総合戦略



平成27年10月
鹿 屋 市

目 次

I	総合戦略の背景と目的	1
II	将来目標と取組方針	2
III	PDCAの考え方	3
IV	総合戦略における施策の方向性	4
V	基本目標・基本的方向とKPI	5
V-1	やってみたいしごとができるまちへ	7
V-2	いつでも訪れやすいまちへ	8
V-3	子育てしやすいまちへ	9
V-4	未来につながる住みよいまちへ	10
VI	個別事業計画	11
VII	付属資料	22
VII-1	有識者委員会の概要	23
VII-2	意見交換会結果（要約）	26

I 総合戦略策定の背景・目的

背景

- 日本の人口は、2008(平成20)年をピークに急速に減少している。
- 本市の人口は、2000(平成12)年から減少傾向にあり、さらに、2011(平成23)年以降は、自然増減と社会増減がともにマイナスの状態が続いており、このまま推移すれば2040年までに9万人を割り込み、2060年には、約7万2千人まで減少すると見込まれている。
- このまま人口減少が進んだ場合、地域コミュニティの衰退や地域経済の縮小、社会保障制度の維持が困難になるなど、地域に様々な課題を生じさせることが懸念される。

目的

- **「鹿屋・大隅が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服する」**

急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくためには、市民一人一人が夢や希望をもち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで、多様な人材の確保及び地域における魅力ある多様な就業機会の創出を一体的に推進することが、重要となっており、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施することを目的とする。

将来目標

『2060年に9万人程度の
人口を維持する』

○自然増減

合計特殊出生率が2030（平成42）年に2.1となるよう段階的な引き上げ、その後一定。

○社会増減

2020（平成32）年までに人口移動が均衡（純移動率0）し、以後は状態を維持。等

取組方針

1 計画期間

平成27年度～平成31年度（5年間）

2 総合戦略の位置付け

鹿屋市人口ビジョンの将来展望を実現するための、今後5ヵ年の施策等を位置付ける計画とする。

内容については、鹿屋市総合計画後期計画の第2期実施計画や新市まちづくり計画との整合性を図る。

3 推進体制

人口減少についての問題意識を地域とともに共有し、地域外に「1,000人の応援団」をつくり、地域内外の幅広い関係者と連携し、鹿屋への想いを共有する。

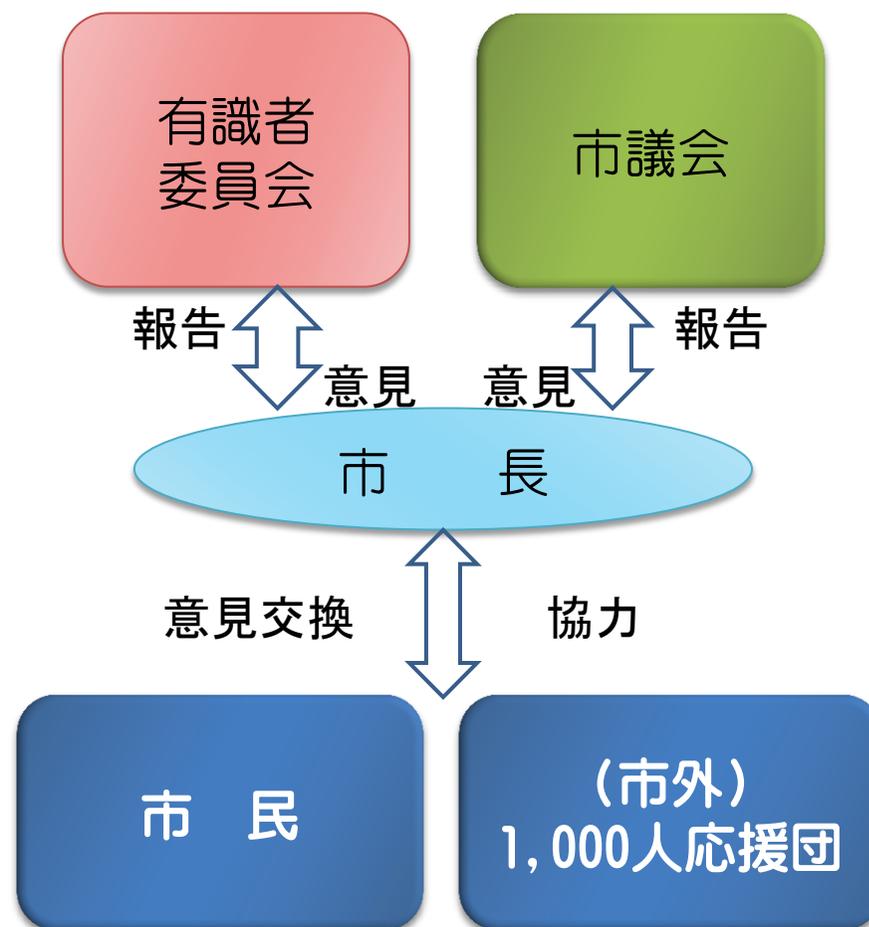
PDCAについて

鹿屋市は、鹿屋市議会及び鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会へ、毎年度、事業の実施状況やその効果について報告し、意見交換を行うなど連携を密にしながら、事業の選定、実施方針の検討、事業の予算化、事業の実施に取り組む。

また、必要に応じて市民の皆さんや各種機関団体の皆さんの意見も頂くとともに、市外在住の「鹿屋市1,000人の応援団（仮称）」の協力も求めている。

実施した事業については、その効果を検証し、鹿屋市の財政状況や社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、事業の改善、スクラップ&ビルドにつながる、PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルを実践する。

■毎年度、KPIに基づき実施



3つのポイント

1 人口減少に歯止めをかけ、一定程度の人口を維持する

国は、基本的な視点として、「2060年に1億人程度の人口を維持する」ことを掲げている。抜本的な対策をとらないと、国の人口は2060年に8,700万人程度になるという将来人口推計もある。国の目標である「2060年に1億人程度の人口」は、人口が減少に転じ始めた2010年（2008年がほぼピーク）と比較して17%の人口減となる。

まず、本市が検討することは、2060年に17%の減少（約18,000人）で抑えること（人口約87,000人）であるが、地方圏である本市においては、17%の減少ではとどまらない可能性が大きい。

2 人口を増やす・維持するために自然増を基本とする

自然増を実現するための視点は、基本的に3つ考えられる。

第1は、夫婦（既婚者）を対象として、「今よりもう一人以上子どもをもうけてもらう」こと。

第2は、独身者を対象として、「結婚してもらう」こと。（第1・2は、もちろん「本人の希望」が前提。）

第3は、生活習慣病の予防や三大疾病の早期発見・早期治療など「健康寿命」を延ばすこと。

（第3は、自治体としての本来の目的である、「住民福祉の増進」の実現を目指して、積極的に取り組む。）

3 社会増には「雇用の場」と「住みやすい住環境」が必要となる

若者の定住や移住の促進には、希望する職場がないことや、賃金水準が低いことなど、将来の生活に対する不安を払拭しなければならず、「働く場の確立と拡大」「安定した収入の確保」が必要となる。

本市の特徴である、第一次産業を機軸に事業の拡大や起業支援の充実を図ることで、雇用の場をつくり、「結婚しよう」・「子どもをもうけよう」・「田舎へ帰ろう」という意識を持たせ定住・移住につなげていく。

あわせて「住みやすい住環境」には、豊かな自然や地域の文化・教育水準、医療・福祉・商業などの生活機能等、様々な要素があげられ、本市の特徴である、豊かな「自然」や「食」と鹿屋体育大学等を中心とした「教育環境」を生かしながら、住環境を更に充実していく。

V 基本目標・基本的方向とKPI

<基本目標と基本的方向>

○「鹿屋市人口ビジョン」で示した人口の将来展望を実現するために、4つの基本目標と、基本目標の達成に向けた基本的方向を定め、具体的な取組を戦略的に推進する。

基本目標・基本的方向

◆基本目標1 やってみたいしごとができるまちへ

<基本的方向>

- ・「かのや農業・農村戦略ビジョン」に基づき、農業都市かのやの再生に向けた取組を加速させ、「地域雇用と所得の増大」と「農村社会の活性化」を図る。
- ・「かのや農業商社モデル事業」の推進や「大隅加工技術研究センター」との連携による「地域6次産業化推進事業」の実施により付加価値の高い農業を展開する。
- ・若者が就きたい企業の誘致や起業(家)を支援していく。

◆基本目標2 いつでも訪れやすいまちへ

<基本的方向>

- ・大隅の観光資源のブラッシュアップや全体をマネジメントする体制を構築することで、「自然」「戦争遺跡」「食」を生かして、交流人口の拡大を図る。
- ・スポーツを生かした特色あるまちづくりや健康づくりを推進し、健康寿命の延伸や交流人口の拡大、幅広い世代の移住・定住につなげる。
- ・定住を促進するため、移住希望者に対して情報提供(空き家・就労等)するなど、各段階に応じたきめ細かな支援策を講じる。

主なKPI	基準値 (H26年度)	目標値 (H31年度)	備考
高校新規卒業者の市内への就職数	97人	150人	年間
大隅加工技術研究センターを活用した6次産業化商品開発件数	—	20件	累計
小規模企業立地件数	—	10社	累計
女性起業家数	—	5人	累計
G-GAP等取得数	—	5戸	累計

主なKPI	基準値 (H26年度)	目標値 (H31年度)	備考
入込客数	約147万人	約150万人	年間
スポーツ合宿受入者数	16,865人	20,000人	年間
空き家バンク利用移住世帯数	—	20世帯	累計
地域コミュニティ協議会数	1	6	累計

基本目標・基本的方向

◆基本目標3 子育てしやすいまちへ

<基本的方向>

- ・広域連携による産科医の確保対策に取組み、安心して産める環境をつくる。
- ・子育て世代支援センターの設置など、産前産後ケアの充実を図る。
- ・中学生までの医療費無料化など、子育て世代の家計負担の軽減を行う。
- ・質の高い教育・保育、遊べる場などの提供により、次代を担う子ども達の健やかな成長を支援する。
- ・女性、男性ともに仕事を続けながら、家事・育児に積極的に参加できる環境づくりを促進する。



◆基本目標4 未来につながる住みよいまちへ

<基本的方向>

- ・「図書館」「空き店舗の活用」等を軸に、子育て世代から高齢者まで、多世代が交流できる「場（サロン）」をつくることで「まちの賑わい」を創出する。
- ・災害に強いまちづくりに取り組むとともに悪臭対策の強化や雨水排水対策の推進、空き家の適正管理などによる安全で安心な住環境を推進する。
- ・公共施設の再編整備や生活環境機能の集約、生活交通の維持など地域毎の拠点整備を推進する。
- ・広域行政を推進し、行政サービスの効率化を推進する。
- ・市内外に多くの応援団（ファン）づくりを推進する。
- ・地域包括ケアの充実・強化を図るとともに、高齢者による健康づくり等の取組を支援し、高齢者が元気でいきいきと暮らせる地域づくりを推進する。



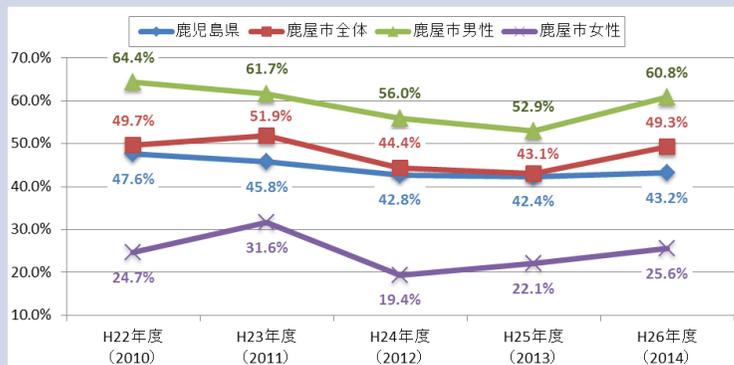
主なKPI	基準値 (H26年度)	目標値 (H31年度)	備考
不妊治療受診者数 (延べ人数)	86人	350人	累計
合計特殊出生率	1.93	1.98	5年間平均
出生数	1,133人	1,235人	年間
全国学力学習状況 調査 (全国平均比較)	-5.8~-3.8	+1	中学3年生 時比較
全国体力・運動 能力調査結果 (全国平均比較)	-1.3~-1	+1	小学5年生 時比較

主なKPI	基準値 (H26年度)	目標値 (H31年度)	備考
空き店舗の活用数	2	10	累計
多世代交流スペース の設置	—	4	累計
雨水排水対策 (冠水箇所)	58	35	年間
ｺﾝﾊﾟ外ｼﾞｲ推進 (小さな拠点づくり)	—	3	累計
鹿屋市1,000人の 応援団	—	1,000人	累計

現状・課題

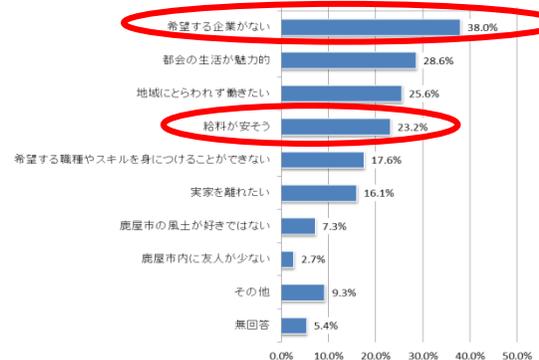
【地元高卒就職者の県外就職割合】

市全体では5割程度で推移しており、特に男性では、平成26年度は6割以上が県外に就職しており、若者の地元定着促進が喫緊の課題となっている。



【市民アンケート：市内高校・大学生】

〈鹿屋市での就職を希望しない理由〉
「希望する企業がない」が最も多く、高校生、専門学校生、大学生別でも、同様の結果となっている。



意見交換会等での声

- 主幹産業である農林水産業の活性化をもっと図るべき。農業県でありながら、農業高校の定員割れは問題。もっと活躍（世界に売り出すなど）できる場があれば、子どもたちも農業に憧れを抱くのではないか。
- 鹿屋は有数の畜産のまちだと思うが、ブランドイメージがない。
- 生徒はほぼ進学だが、将来の仕事は鹿屋を希望している生徒も多い。
- 跡取りがおらず廃業を考えている事業者があるので、起業しようと考えている人とのマッチングができないか。
- IT企業やデザイナーなどを誘致できないか。インフラさえ整っていれば、田舎でも仕事できる。

第一次産業の強化

本市の基幹産業である第一次産業が元気になれば、他への波及効果も大きく、本市の経済成長の原動力となる！！

かのや農業商社モデル事業

- ・関係機関や生産者等による研究会を立ち上げ、連携・協力のもと、食品流通の川中・川下の要望への対応や、新たな物流システムの構築に取り組む。

食の魅力発信推進事業

- ・イベント開催などにより、農作物等の市場開拓や販路開拓を図る。

地域6次産業化推進事業

農業・農村サポート事業

若者の市内定着につながるしごとづくり

魅力ある雇用の場や起業機会を創出し、若者の市内定着、市内帰りを促進

小規模企業立地促進事業

- ・起業等を目指す人を対象に、初期段階における負担軽減等を支援

起業・雇用創出事業

- ・起業希望者と後継者のいない事業所とのマッチングなど

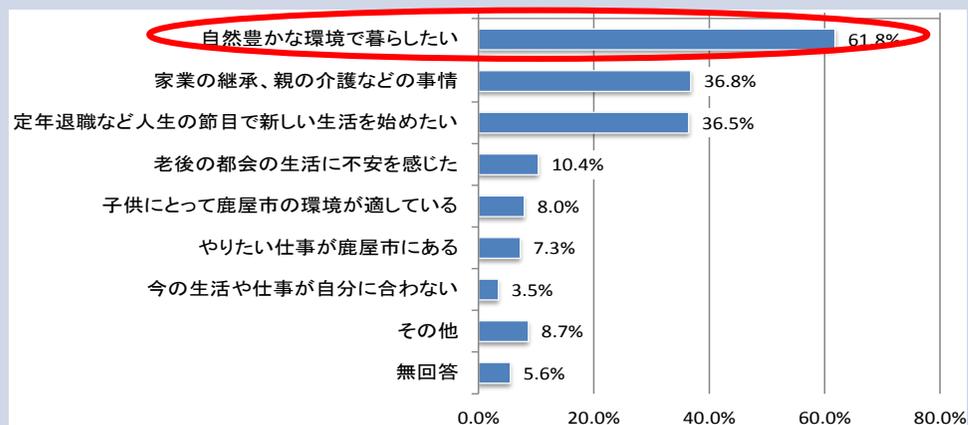
企業誘致推進事業

現状・課題

【市外居住者向けアンケート】

<鹿屋市に移住する際の最大の理由>

「自然豊かな環境で暮らしたい」が最も多い。



意見交換会等での声

- 魅力はたくさんあると思うが、うまく情報発信できていない。
- 田舎の体験や良さは都会の人にとって魅力である。当たり前のことが楽しかったようだ。
- 一度鹿屋に来てもらえれば、鹿屋の良さを認識できるはず。短期間でもいいので、住んでみようという人を呼び寄せる策がほしい。
- 大阪の人と鹿屋の話しをしても、9割強は鹿屋を知らない。食、ロケット基地、史料館など、もっとPRしてほしい。鹿屋単独では難しいので、大隅全体でPR、物産に取り組んで欲しい。
- 健康とスポーツと体育大学を絡めて何かできないか。
- 体育大学があるので、小中学生との交流やスポーツに興味を持たせるように学校と連携すべきではないか。
- 自然が魅力なので、自然を生かした観光などを増やしてほしい。

定住の促進

- 都会で暮らすより、実質は豊かな暮らしができるという利点を具体化して、都市部在住者にアピールし、移住増加！！
- 健康とスポーツによるまちづくりを推進し、鹿屋の魅力・活力を高め定住人口等の増加につなげる。

交流人口の拡大

- 大隅半島に広がる、豊かな「自然」や次世代につなぐ「戦争遺跡」と、豊富な「食」をマネジメントする仕組みをつくる。
- 観光客等の交流人口を増やすことで、人口減少の影響を緩和し、地域内消費額を増加させ、地域経済を活性化！！

定住促進

- 空き家バンク制度
- Uターン希望者への滞在型職業体験
- 県外在住者への市内企業等の情報提供の充実
- 地域コミュニティの推進 等

健康・スポーツ

- 鹿屋体育大学との連携強化
- 地域運動サークルの育成
- ホームタウンスポーツの推進
- スポーツ合宿まちづくり
- スポーツ施設の再編・整備
- 健康づくり条例の制定・推進 等

大隅広域観光の推進

- 大隅の観光資源のブラッシュアップ
- 情報発信媒体の多角化（SNS等の活用）
- 観光PR拠点づくり（アンテナショップ機能含む） 等

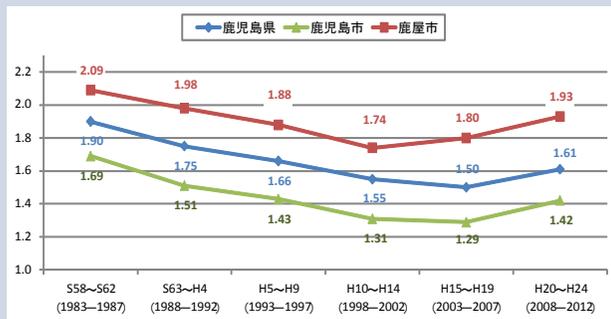
魅力ある観光地づくり

- 民間活力を生かした霧島ヶ丘公園の再整備
- 観光資源（海岸線エリア、輝北うわば公園及び輝北天球館、吾平山上陵周辺、戦争遺跡等）の魅力アップ 等

現状・課題

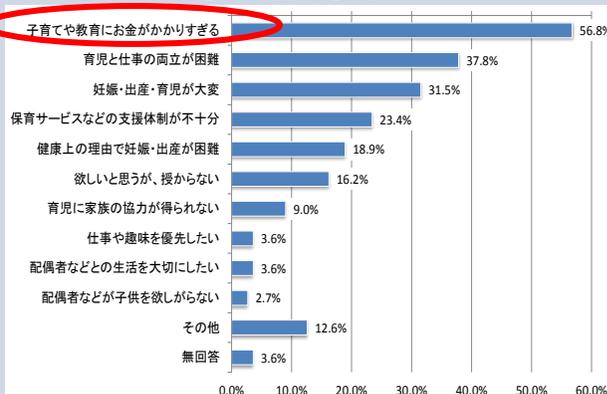
【合計特殊出生率】

本市の合計特殊出生率は、1.93で県平均よりも高い数値となっているが、人口を維持するために必要とされる2.07は下回っており、少子化傾向が続いている。



【市民アンケート】

予定している子どもの数が理想より少ない理由については、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も多い。



意見交換会等での声

- 里帰り出産が厳しいと聞いた。地元で安心して出産できる体制が必要。
- 24時間対応の産科がないと出産に不安を感じる。
- 結婚・出産に力を入れて欲しい。
- 学童保育とは別で、地域で預けられる施設をつくってはどうか。
- 子育てしやすい町になってほしい。子どもが遊べる場所、魅力ある学校など、子育て世代が住みたい町になってほしい。
- 鹿児島市独自の取組を保育園共通でやってみてはどうか。
- 教育や子育てに力を入れ、ブランド化すれば、若い世代・子育て世代には良いアピールになると思う。

出産・子育て支援の充実～子育て世代に選ばれるまちへ～ (鹿児島市子ども・子育て支援事業計画の推進)

かのやで生まれ・・・

- 不妊治療費助成の拡充
- 大隅4市5町の連携による産科医確保対策
 - ・産科医療体制確保支援事業補助金の創設
 - ・助産師学生への奨学金制度の設立
- 産前・産後ケアの充実
 - ・子育てすくすくメールの充実
 - ・妊産婦乳幼児健康診査事業
 - ・子育て世代支援センターの設置 等

かのやで育ち・・・

- 子ども医療費の助成
- 多子世帯等への支援
 - ・住宅リフォームへの支援等
- 地域子ども・子育て支援
 - ・放課後児童クラブ
 - ・延長保育、病児保育、一時預かり
 - ・地域子育て拠点の整備 等

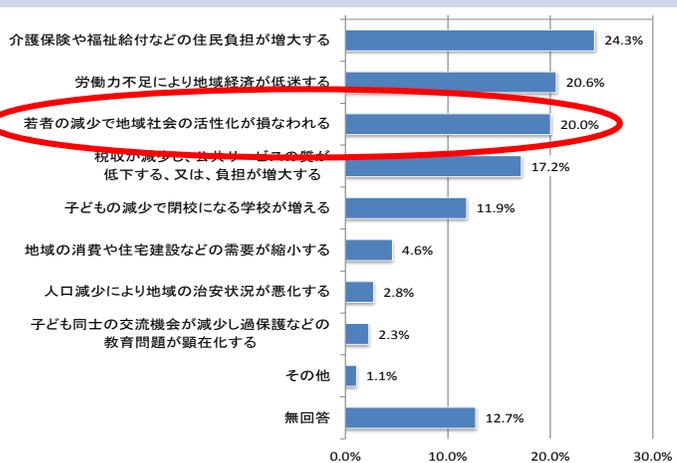
かのやで学ぶ！

- 魅力ある教育の提供
 - ・学力の向上に向けた取組の推進
 - ・英語力向上プロジェクトの実施
 - ・子ども達の体力向上に向けた取組（幼児・児童パワーアップ事業）
- 地域教育力の向上
 - ・鹿児島版寺子屋の開設
 - ・地域と連携した学校教育活動の実施 等

現状・課題

【市民アンケート】

<人口減少の影響について>



意見交換会等での声

- 商店街に活気がない。活があれば、人も来るし住むと思う。
- 現在の図書館の場所は分かりにくい。リナシティにあれば利用もしやすい。
- 図書館や公民館を充実してほしい。
- バスの運行は中心部ばかり。高齢者は病院等への移動手段に困っている。
- 高齢者は病院帰りの交通手段に困っている。幹線道路以外にもバスを走らせるべき。
- 市内の回遊性を高める仕掛けが必要ではないか。
- 雨が降った時、子どもを連れて行くことができる施設がない。
- 子ども達が安全に遊べる場、世代間交流ができる場をつくる。
- ににお対策は必要。まちに対するイメージが悪い。
- 同じようなことをどこでもやっており、まとまりがない。大隅という括りでやった方が力発揮できる。鹿屋がリーダーシップを取ってやるべき。

地域・世代が未来につながるまちづくり

- 図書館によるまちづくり
 - ・中心市街地等の一部に図書館エリアを設定
- 商業施設等活用支援事業
 - ・空き店舗への創業支援、リノベーションワークショップの実施、多世代交流サロンの開設等
- 高齢化、過疎化に対応した持続可能なコミュニティの形成促進 等

きれいで快適なまちづくり

- 安全・安心な住環境の整備等
 - ・悪臭対策の強化
 - ・雨水排水対策の推進
 - ・空き家の適正管理
 - ・交通安全対策(ゾーン30等)
- 防災・減災対策の充実・強化
 - ・消防団の活性化(女性消防団員等の加入促進)
 - ・災害に強いまちづくり(自主防災活動の促進等)

コンパクトなまちづくり

- 公共施設の再編整備
- 地域住民の生活交通の維持確保
- 医療・福祉・商業等の生活サービス機能や居住の集約・誘導 等

地域と地域を結ぶまちづくり

- 鹿屋市を応援する新たなネットワークづくり
 - ・都市部と鹿屋を結ぶ1,000人応援団づくり
 - ・首都圏中高生との地域交流
 - ・ふるさと納税制度の活用
- 広域行政の推進 等

高齢者にやさしいまちづくり

- 地域包括ケアの推進
 - ・見守り活動等の地域で支えるネットワークづくり等
 - ・基幹型地域包括支援センターの設置
- 高齢者の生きがいづくり
 - ・高齢者グループの健康づくり等の活動支援 等

VI 個別事業計画

1 やってみたいしごとができるまちへ

第一次産業の強化

	事業名等	区分	概要	K P I
1	かのや農業商社モデル事業	継続	食品流通の川中・川下の要望への対応や、新たな物流システムの構築に取り組む。	・商社への参加法人・農家数 －(H26)→10社(H31)
2	食の魅力発信推進事業	先行型 新規	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物等のブランド化の取組(食イベント等)を支援 ・輸出を見据えた国際安全規格取得等の支援 ・かのや産畜産物の販売促進・PR活動を支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンパチ販売額 3,751百万円(H26)→3,900百万円(H31) ・G-GAP等取得に取り組む生産者数 －(H26)→5戸(H31:累計) ・参加業者数(かのや肉まつり(仮称)) －(H26)→15業者(H31)
3	地域6次産業化推進事業	先行型	各種相談対応、商品開発や販路開拓等への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業による起業・事業拡大件数 －(H26)→10件(H31:累計) ・大隅加工技術研究センター等を活用した商品開発件数 －(H26)→20件(H31:累計)
4	農業・農村サポート事業	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・農業農村を支える人材の育成、農村活動支援 ・新規作物、新栽培技術導入への支援。 	・農援隊の派遣回数 －(H26)→240回(H31:累計)
5	ニューファーマー育成事業	継続	新規就農者への支援(研修等の実施)	・新規就農者数 18人(H26)→90人(H31:累計)
6	飼料用米普及推進事業	継続	飼料用米の活用実証を行い、転作における飼料用米の作付け推進を図る。	・作付面積 44ha(H26)→70ha(H31)
7	畜産経営活性化対策事業	継続	飼養管理技術に基づく適正交配や優良血統牛等の専門的技術指導に基づく畜産農家の経営安定指導による支援	・多頭農家率(飼育頭数20頭以上) 14.3%(H26)→17%
8	繁殖雌牛早期淘汰促進事業	継続	不受胎牛や低能力高齢牛の淘汰・更新による市場性のある付加価値の高い子牛生産を支援	・分娩間隔 408日(H26)→400日(H31)

VI 個別事業計画

第一次産業の強化

	事業名等	区分	概要	K P I
9	優良肉用牛改良促進活性化対策事業	継続	優良な肉用繁殖雌牛の確保による肉用牛の改良促進と銘柄確立	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖雌牛飼養頭数 11,870頭(H26)→11,870頭(H31)
10	肉用牛肥育経営強化対策事業	新規	肥育素牛や繁殖雌牛の導入支援による経営農家の安定化と経営内一貫体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> 枝肉重量 474kg(H26)→480kg(H31)
11	学校給食地場食材利用拡大モデル事業	継続	地場食材を学校給食で提供し、本市等で生産される農林水産物を児童生徒に理解してもらうとともに、一層の地産地消を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食での県産利用率（南部給食センター） 50.8%(H26)→61%(H31)
12	鳥獣被害総合対策事業	継続	有害鳥獣監視員の配置、ジビエ料理開発等	<ul style="list-style-type: none"> 被害額（減少率） 9,425千円(H26)→ 8,482千円(10%の減)(H31)

企業誘致・起業支援

	事業名等	区分	概要	K P I
1	小規模企業立地促進事業	先行型	情報通信業や本市の特性を生かした企業等の立地支援（初期負担軽減等の支援）	<ul style="list-style-type: none"> 本事業による企業立地件数 －(H26)→10社(H31) 本事業による新規雇用者数 －(H26)→30人(H31)
2	起業・雇用創出事業	先行型	<ul style="list-style-type: none"> 起業予定者等への体験ツアーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業を通じた定住世帯数 －(H26)→5世帯(H31)
		新規	<ul style="list-style-type: none"> 起業希望者と後継者のいない事業所とのマッチング（事業承継マッチング） 	<ul style="list-style-type: none"> 女性起業家数 －(H26)→5人(H31) Uターン者数 －(H26)→3人(H31)
3	企業誘致推進事業	継続	企業誘致活動、既存立地企業へのアフターフォロー等	<ul style="list-style-type: none"> 立地企業による雇用者数 2,714人(H26)→2,830人(H31)

2 いつでも訪れやすいまちへ

定住促進

	事業名等	区分	概要	K P I
1	定住促進事業	先行型	<ul style="list-style-type: none"> ・専従の相談員の配置、空き家バンク制度 ・空き家情報、就労情報等の提供等 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク活用による定住世帯数 －(H26)→20世帯(H31)
		新規	<ul style="list-style-type: none"> ・Uターン希望者への滞在型職業体験 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク活用による定住世帯数 －(H26)→20世帯(H31)

健康・スポーツ

	事業名等	区分	概要	K P I
1	ホームタウンスポーツ推進事業	新規	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿屋市を拠点とするプロチーム設立による雇用づくり、交流人口の増加等を図る。 ・サイクリングマップ作成、コース整備、その他環境整備等（サイクリングを楽しむまちづくり） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車イベント等の開催回数 1回(H26)→7回(H31)
2	地域運動サークル促進事業	新規	鹿屋体育大学との連携により、地域や自分たちで行う健康づくり活動を支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運動サークル設置件数 －(H26)→10件(H31)
3	スポーツ合宿まちづくり推進事業	継続	スポーツコミッションを設立し、産官学連携によるスポーツ合宿の誘致等	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ合宿受入者数 16,865人(H26)→20,000人(H31)
4	競技スポーツ推進事業	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・各種大会の開催支援、競技者の大会参加への支援、競技力向上のための体制づくり等 ・国体に向けた競技力向上対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技人口 5,738人(H26)→6,000人(H31) ・大会出場者数（九州大会以上） 620人(H26)→700人(H31)
5	鹿屋市スポーツ施設再配置事業	継続	「鹿屋市スポーツ関係施設再配置計画」に基づくスポーツ交流施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・体育施設利用者数 491,000人(H26)→505,000(H31)

VI 個別事業計画

健康・スポーツ

	事業名等	区分	概要	K P I
7	生涯スポーツ推進事業	継続	スポーツに親しむことのできるスポーツ環境の整備等	・総合型スポーツクラブ会員数 2,730人(H26)→3,000人(H31)
8	鹿屋ヘルスアッププラン21推進事業	継続	健康づくり事業の展開（市民健康づくり講座等）、健康ボランティアの育成、健康づくりの情報発信等	・市民健康づくり講座参加者数 146人(H26)→188人(H31)

VI 個別事業計画

観光振興

	事業名等	区分	概要	K P I
1	魅力ある観光地づくり	新規	霧島ヶ丘公園と輝北うわば公園等の再整備、 海岸線エリアの魅力アップ等	<ul style="list-style-type: none"> 入込客数 147万人(H26)→150万人(H31)
2	大隅広域観光の推進 (大隅版DMOへの取組)	新規	大隅地域の広域的な情報発信とプロモーションと、その活動拠点となる施設の設置に向けた広域的な体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 入込客数(大隅地域) 6,348,405人(H26)→ 6,600,000人(H31)
		先行型	<ul style="list-style-type: none"> 大隅の食材のPRや販路開拓、観光資源を活かした観光プログラムメニューの造成等 【観光資源発掘・開発推進事業】 	<ul style="list-style-type: none"> 観光プログラムメニュー造成件数 —(H26)→30件(H31)
		先行型	<ul style="list-style-type: none"> モニターツアー、観光PR等の実施 【観光PR誘客推進事業】 	<ul style="list-style-type: none"> 入込客数 147万人(H26)→150万人(H31)
		継続	<ul style="list-style-type: none"> 体験農家の確保・登録、研修会の開催などによる、受入体制の整備 【グリーンツーリズム推進事業】 	
		継続	<ul style="list-style-type: none"> 地場産品を活用したメニュー開発、市内外へのPR等【食と観光、ツーリズムを活かした雇用創出サポート推進事業】 	
3	登山&トレッキング誘客促進事業	継続	登山・トレッキング(高隈山)の周遊ルートの開発・整備、情報発信等	<ul style="list-style-type: none"> 高隈山登山者数 2,567人(H26)→3,000人(H31)
4	戦跡保存活用事業	新規	本市の歴史・戦跡等を活用した取組の推進。平和学習ガイドの育成・活用、戦跡の保存活用等	<ul style="list-style-type: none"> 平和学習ガイドによる案内人数 —(H26)→2,500人(H31)

3 子育てしやすいまちへ

結婚

	事業名等	区分	概要	K P I
1	星がきらめき人が輝く「ときめきハイランド」事業	継続	地域主体で実施する特色ある婚活イベント等を支援し、地域活性化と地域住民の交流を促進する。	・カップル成立数 －(H26)→15組(H31：累計)
2	農家街コン	継続	第1次産業に従事する独身男性の婚活支援	・カップル成立数 －(H26)→20組(H31：累計)

出産

	事業名等	区分	概要	K P I
1	不妊治療費助成事業	先行型	・特定不妊治療費への助成	・不妊治療受診者数（延べ人数） 86人(H26)→350人(H31：累計)
		新規	・男性不妊治療への支援	
2	産科医確保対策	新規	・産科医療体制確保支援事業補助金の創設 ・助産師学生への奨学金制度の設立	・産科医数 4人(H26)→7人(H31)
3	子育て世代支援センターの設置	新規	産前・産後ケアの充実	・妊婦（第1子）訪問 7.5%(H26)→60%(H31)

子育て

	事業名等	区分	概要	K P I
1	子育てサポート企業応援事業	新規	子育てを推進する企業のPR等	・くるみん企業認定社数 3社(H26)→7社(H31) ・かごしま子育て応援企業認定社数 21社(H26)→25社(H31)

VI 個別事業計画

子育て

	事業名等	区分	概要	K P I
2	多子世帯等への支援	新規	<ul style="list-style-type: none"> ・第3子以降の保育料軽減 ・未婚のひとり親の保育料軽減 ・おむつ用ごみ袋支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・合計特殊出生率 1.93(H26)→1.98(H31)
3	子育てすくすくメール事業	先行型	育児情報、母親のメンタルヘルスに関する情報等をメールマガジンとして配信	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者数 348人(H26)→700人(H31)
4	子ども医療費助成事業	継続	中学校修了までの子どもの医療費助成	<ul style="list-style-type: none"> ・助成件数 192,228件(H26)→200,000件(H31)
5	子育て支援環境整備事業	継続	母親クラブの活動支援、児童館の運営支援	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館の利用者数 13,485人(H26)→15,000人(H31)
6	障害児保育事業	継続	障害児保育を実施している保育園に対して補助金を交付し、障害児保育の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児受入可能園数 42(H26)→42(H31)
7	地域子ども・子育て支援事業	継続	放課後児童クラブや延長保育等、子ども子育て支援事業計画に基づく各種施策を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ数 24ヶ所(H26)→29ヶ所(H31)
8	桜ヶ丘子育て支援住宅整備PFI事業	継続	子育て支援住宅としての整備検討	<ul style="list-style-type: none"> ・整備戸数 0戸(H26)→40戸(H31)
9	支え愛ファミリー住宅改修応援事業	新規	子育て・三世帯同居の住宅改修を支援	<ul style="list-style-type: none"> ・改修件数 0件(H26)→400件(H31)
10	子育て世代にやさしい図書館づくり	新規	図書館の中に、子育て世代に特化した利活用スペースの設置	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生以下の入館者数 21,198人(H26)→22,000人(H31)

VI 個別事業計画

魅力ある教育の提供

	事業名等	区分	概要	K P I
1	学力向上プロジェクト	新規 継続	・教職員の資質能力の向上に向けた取組の充実・強化 等	・全国学力学習状況調査結果の全国平均比較（中学3年生時比較） -5.8~-3.8(H26)→+1(H31)
2	英語力向上プロジェクト	新規 継続	・コミュニケーション能力等の育成に資する教育課程の編成・実施 ・教職員の資質向上に向けた取組の強化 ・英語に触れる機会を増やすための取組の推進（イングリッシュキャンプの実施等）等	・英検3級以上取得率(中学3年) 17%(H26)→50%以上(H31)
3	学校の魅力づくり	新規	・目指す学校像、教育ビジョンを検討・整理し、魅力ある学校づくりを行う。 (鹿屋女子高の活性化等)	・鹿屋女子高の充足率 74.0%(H26)→100%(H31)
4	鹿屋市国際交流協会支援事業	継続	国際交流協会の活動を支援し、国際性豊かな人材育成、地域の活性化を図る。	・国際交流員会員 223人(H26)→300人(H31)
5	学校応援団事業	継続	・地域と連携した学校教育活動の実施	・ボランティア登録者数 3,287人(H26)→4,000人(H31)
		新規	・地域と子ども達に関わる仕組みづくり (鹿屋版寺子屋の開設)	・寺子屋設置数 - (H26)→5箇所(H31)
6	幼児・児童パワーアップ事業	新規	鹿屋体育大学と連携し、幼児・児童の体力向上プログラムの作成・実施	・実施校数（小学校） 1校(H26)→24校(H31) ・全力体力・運動能力調査結果の全国平均比較（小学5年生時比較） -1.3~-1(H26)→+1(H31)
7	鹿屋市平和教育推進事業	継続	「平和の花束」の開催による平和のメッセージ発信	・鹿屋市立小中高等学校の参加率 67%(H26)→100%(H31)

4 未来へつながる住みよいまちへ

地域・世代が未来につながるまちづくり

	事業名等	区分	概要	K P I
1	図書館によるまちづくり	新規	中心市街地等の一部に図書館エリアを設定	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数 －(H26)→3,500人(H31)
2	商業施設等活用支援事業	先行型	(中心市街地空き店舗活用支援事業) ・空き店舗への創業支援 ・リノベーションワークショップの実施 ・多世代交流サロンの開設	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗への入居件数 2件(H26)→10件(H31) 北田・本町商店街歩行者通行量 815人(H26)→1,400人/日(H31) 多世代交流施設の設置 －(H26)→4ヶ所(H31)
3	地域コミュニティモデル推進事業	継続	「地域コミュニティ協議会」のモデル地区の活動支援等	<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティ協議会数 1(H26)→6(H31)
4	神野のヒト・モノ・自然を生かした交流拠点整備事業	継続	豊かな自然環境を生かし、地域の自然を散策するトレッキングコースを整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 神野地区交流人口 4,904人(H26)→10,000人(H31)
5	串良地域まちづくり推進事業	継続	串良地域における地域コミュニティ組織形成に向けた支援等	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ協議会数(串良地域) 0(H26)→3(H31)
6	ENGLISH VILLAGE構想	新規	英語に親しむ環境づくり(全ての世代が英語に親しめる異文化空間づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ENGLISH VILLAGE利用者数 －(H26)→1,500人(H31)

コンパクトなまちづくり

	事業名等	区分	概要	K P I
1	総合交通対策事業	継続	地域住民の生活交通の維持確保等に必要な対策を講じる。	<ul style="list-style-type: none"> くるりんバスの満足度(高齢者) －(H26)→70%(H31)
2	小さな拠点モデル事業	先行型	小さな拠点づくりのコミュニティ機能を有する「輝北キラキラ館」の活動を支援し、地域活性化等を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 輝北キラキラ館集客数 37,728人(H26)→40,000人(H31)

VI 個別事業計画

コンパクトなまちづくり

	事業名等	区分	概要	K P I
3	公共施設等総合管理計画策定事業	継続	公共施設等総合管理計画の策定	・公共施設等総合管理計画の策定 －(H26)→1(H31)

きれいで快適なまちづくり

	事業名等	区分	概要	K P I
1	畜産環境対策事業	継続	畜産環境パトロール員によるパトロール及び農家指導	・臭気苦情件数 59件(H26)→40件(H31)
2	畜産臭気緊急特別対策事業	継続	防臭対策への支援や監視体制の強化等、畜産臭気対策を実施	・臭気苦情件数 59件(H26)→40件(H31)
3	環境対策推進事業	継続	ウミガメの保護、環境出前講座の実施、水質浄化対策の実施など、自然環境保全を推進する。	・環境出前講座参加人数 682人(H26)→1,050人(H31)
4	総合雨水排水対策事業	継続	冠水地区の排水路新設、改修を行い、生活環境の改善を図る。	・冠水箇所 58(H26)→35(H31)
5	空き家適正管理促進事業	継続	空き家の取り壊しに関する解体費等の補助等	・危険空き家解体進捗率 21.1%(H26)→30%(H31)
6	交通安全普及事業	継続	交通安全に関する啓発、高齢者運転免許返納支援等	・交通死亡事故者数 8人(H26)→4人(H31)
7	交通安全施設整備事業	継続	クロスマークやドットライン等の法定外表示などによる交通安全対策、ゾーン30等	・交通事故発生件数 586件(H26)→400件以内(H31)
8	災害につよいまちづくり事業	継続	地域住民の避難体制の整備や自主防災組織の防災活動に対する助成	・土砂災害警戒区域における図上訓練及び避難訓練の実施率 0%(H26)→100%(H31)
9	消防団活性化事業	継続	地域防災に欠くことのできない非常備消防の充実を図る。(女性消防団員加入促進等)	・女性消防団員数 8人(H26)→25人(H31)

VI 個別事業計画

高齢者にやさしいまちづくり

	事業名等	区分	概要	K P I
1	あんしん地域ネットワーク推進事業	継続	ひとり暮らし等の要介護高齢者に対する見守り活動等の地域で支えるネットワーク構築を図る。	・地域での生活支援・介護予防サービスの実施を推進する協議体の設置 －(H26)→7協議体(H31)
2	高齢者元気度アップ地域包括ケア推進事業	継続	健康づくりや社会参加等に対し、商品券等に交換可能なポイントを付与し、介護予防や高齢者を地域全体で支える地域包括ケアを推進する。	・登録団体数 0(H26)→200団体(H31)
3	在宅医療・介護連携推進事業	継続	肝属圏域全体での在宅医療・介護連携の推進体制の構築	・在宅診療のできる診療所 22人(H26)→25人(H31)

地域と地域を結ぶまちづくり

	事業名等	区分	概要	K P I
1	鹿屋市を応援する新たなネットワークづくり	新規	都市部と鹿屋を結ぶ1,000人応援団づくり	・鹿屋の応援団(市外) －(26年)→1,000人(31年)
		新規	首都圏中高生による、鹿屋の抱える課題への施策提言、地域交流	・首都圏中高生による施策提案 －(26年)→15校(31年)
2	広域行政の推進	継続	大隅総合開発期成会による取組の推進	
		継続	定住自立圏共生ビジョンの推進	

VII 附属資料

VII - 1 有識者委員会の概要

鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会の経過

開催日	会議	主な内容
平成27年4月30日	第1回有識者委員会	<p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」について 2 これまでの本市の取組状況について <p>【協議】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 副委員長の選任 2 鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定の基本方針（案）
平成27年5月29日	第2回有識者委員会	<p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鹿屋市の人口動態等について 2 策定委員会の進捗状況について <p>【協議】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アンケート調査の内容について（案）
平成27年8月27日	第3回有識者委員会	<p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまでの経過について 2 意見交換会の結果概要について <p>【協議】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鹿屋市人口ビジョン（素案）について 2 鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について 3 今後の進め方について
平成27年10月21日	第4回有識者委員会	<p>【協議】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまでの経過について 2 鹿屋市人口ビジョン（案）について 3 鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について 4 今後の進め方について



VII - 1 有識者委員会の概要

鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会 委員名簿

	分野	団体名	役職	氏名		分野	団体名	役職	氏名
1	産業	鹿屋商工会議所	会 頭	坪水 徳郎	8	金融	鹿児島銀行鹿屋支店	支店長	陣之内 武
2		鹿児島きもつき 農業協同組合	代表理事 組合長	有里 正心 (H27, 4. 30~5. 28)	9	労働 団体	連合大隅地域協議会	議 長	小松 秀司
				下小野田 寛 (H27, 5. 29~)	10	その他	鹿屋市P T A連絡協議会	会 長	竹井 高志
3		鹿屋市漁業協同組合	代表理事 組合長	皆倉 貢	11		鹿屋市社会福祉協議会	会 長	浜田 保
4	行政	鹿児島県 大隅地域振興局	局 長	酒匂 司	12		N P O法人ローズリング かのや	理事長	萩枝 文子 (H27, 4. 30~8. 26)
5	教育	国立大学法人 鹿屋体育大学	学 長	福永 哲夫		専務理事		加藤 リサ (H27, 8. 27~)	
6		鹿児島県立 鹿屋高等学校	校 長	今村 成弘	13	鹿屋市主任保育士会	会 長	三島 慈子	
7	金融	日本政策金融公庫 鹿屋支店	支店長	飯澤 貴志	14	CANOYAN G I R L	代 表	落司 ひとみ	

Ⅶ - 1 有識者委員会の概要

鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会設置要綱

(設置)

第1条 まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条の規定に基づき、国及び鹿児島県が策定する「まち・ひと・しごと総合戦略」を勘案して鹿屋市が策定するまち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）について調査・検討するため、鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、必要に応じて総合戦略についての調査・検討を行い、その結果を市長に具申する。

(組織)

第3条 委員会は、委員20人以内で組織する。
2 委員は、次に掲げる分野の関係者のうちから市長が委嘱する。
(1) 産業
(2) 行政
(3) 教育
(4) 金融
(5) 労働団体
(6) 報道
(7) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、総合戦略の策定及びその実施に係る期間とする。
2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長1人を置く。
2 委員長は委員の互選により選任し、副委員長は委員長が指名する。
3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長が議長となる。
2 委員が会議に出席できないときは、委員が指名し、かつ、委員長が認めた者を委員の代理として出席させることができる。
3 会議は、委員（前項に規定する代理出席者を含む。）の過半数が出席しなければ、開くことができない。
4 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は意見を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、市長公室政策推進課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

VII - 2 意見交換会結果（要約）

団体名	しごとづくり	ひとの流れ	結婚・出産・子育て	まちづくり
鹿屋市主任保育士会 (実施日:6/29)	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅はあった方がよい ●霧島ヶ丘公園に道の駅を作ったらおもしろいのではないかと。 ●バスの運行は中心部ばかり。高齢者は病院等への移動手段に困っている。郊外も走るようなバス会社をつくってみてはどうか。そうすれば雇用も生まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ばら祭りは人が集まるが、年に2回しかない。一年を通して人が集まる仕掛けが必要。 ●ばら園周辺の土地がもったいない。有効活用できないか。 ●いい施設があるが、全体的にPR不足 ●高齢者は病院帰りの交通手段に困っている。幹線道路以外にもバスを走らせるべき。 ●鹿屋市は高齢者にとって環境が良い。CCRC構想も悪くない。 ●リナシティに行ってみたいとは思わない。1階は暗いので改造が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●各園がそれぞれ特色を出すのもいいが、それでは園児の取り合いになってしまう。鹿屋市独自の取組を保育園共通でやった方がいい。 ●僻地にある保育園は、園児確保が大変。ぜひ市から園の特色を情報発信してほしい。 ●情報発信も大事だが、直接来園して見てもらわないと特色伝わらないと思う。 ●感染症でも登園させる保護者がいる。病児保育を充実させて、利用しやすくしてほしい。 ●結婚・出産に力を入れて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●古い市営住宅は修繕して、きれいにすべき。 ●夜間診療、土曜(午後)診療してくれる病院がほしい ●産婦人科・小児科のある病院の充実すべき。 ●保育士不足なので、保育士課程がある短大をつくってみてはどうか。 ●堤防をきれいにしてほしい。
日本政策金融公庫 鹿屋支店 (実施日:7/1)	<ul style="list-style-type: none"> ●一次産業が軸となると思う。 ●生産・加工・流通まで鹿屋市内で行い、鹿屋ブランドをつくって、PRすべき。かのや農業商社ができれば、流通の面はよくなるのではないかと。 ●素材は揃っている。それをどう情報発信するかが大事。PRするためには、名前やコンセプトが重要。 ●鹿屋といえば体育大学なので、連携して何かできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●食は、海外に向けても発信できるツールである。 ●「永遠の0」や肝付の「ロケット」など、話題があれば人は足を運ぶので、どれだけ質の高い情報をいかに速く発信できるかが重要 ●高速道路の開通で人を呼び込みやすくなったが、一方で出て行きやすくなった。 ●鹿屋市で食事しようとネットでお店を探すが何もヒットしない。いいお店がたくさんあるはずなのに、PRが全くできていない。 ●豊かな自然やおいしい食もあるのに、富裕層の高齢者をターゲットにPRしてみてもどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●女性の活躍の推進をサポートするため、市と連携して、子育て支援等が充実している会社への低利融資するのもおもしろい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家族で遊べる場所や、ゆつろぎできるカフェがほしい。 ●全国を転勤して感じたこととして、鹿屋の子どもたちは、よく挨拶をする。他にはない特徴である。
鹿屋市社会福祉協議会 (実施日:7/10)	<ul style="list-style-type: none"> ●介護分野の人材は将来的に不足する見込。施設介護は定着しているようだが、在宅介護には低賃金などの理由から若い人が少なく、長続きしない傾向にあり、人材不足。登録ヘルパーも不足している。 ●有料老人ホームについては、乱立しており、都市部高齢者の受皿となりうる。 ●福祉に関心をもってもらうため、子どもたちが福祉職にふれあう機会を設けるのも1つの方法である。福祉職に有名人を起用したドラマができればPRになるが・・・。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高速道路が整備された結果、ますます市外に出る人が増えたが、市内に来る人間は少ない。 ●鹿屋・鹿児島直行バスまたは高速で、鹿屋にきた人間の動きをサポートする体制が弱いのではないかと。 ●良いもの・良いところがあっても、それを発信・PRできていない。 ●一度鹿屋に来てもらえれば、鹿屋の良さを認識できるはず。短期間でもいいので、住んでみようという人を呼び寄せる策がほしい。 ●鹿屋ならではの自然(海や川)を活かし、「つり大会」を行えば、容易に集客できると思う。 ●都城にあるようなショッピング施設ができれば、もっと人が集まってくると思う。 ●5年住んだら、特産品や1年分の子供用紙おむつをプレゼントするのはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●休日に子どもを連れて遊ぶ場所がなく、市外にでてしまう。 ●雨の時は、玄関に車で横付けできる施設や屋根がある所で乗り降りできる施設を選んで遊びに行く。 ●鹿屋市に今ある施設(つどいの広場や児童センター等)は年齢ごとに制限があるので、年齢制限が無く、すべての子どもと一緒に遊べる遊び場が欲しい。 ●きこりたちの店等から協力をもらい、廃材を使って子どもに遊ばせるのもおもしろいと思う。 ●吾平の工業跡地を活用し、工場従事者OBに協力をもらって、重機(クレーン)を使って遊ばせてみては？ ●鹿児島市のリボン館のような無料施設が欲しい。 ●稲刈り等、農業体験できる場所が欲しい。子供達に田んぼでどろんこ遊びをさせてみたい。 ●若い世代へ、子ども用紙おむつの支給はできないか(例えば、出生1年間の支給) 	<ul style="list-style-type: none"> ●中心街を離れると交通の便が悪い。バス等のルート外の人が利用できるよう拡大・移動タクシーを取り入れると買い物しやすい。 ●JR・バスセンターが廃止になり、鹿屋の玄関口がどこかわからない。 ●学校・病院・店舗などが近いので住みやすいが、税金が高い。水道料が0円になれば魅力となると思うが。 ●晴れたら屋外、雨なら屋内を利用できるような場所があると集まりやすい。

VII - 2 意見交換会結果（要約）

団体名	しごとづくり	ひとの流れ	結婚・出産・子育て	まちづくり
鹿屋商工会議所 (実施日:7/13)	<ul style="list-style-type: none"> ●職業訓練に対する支援の強化が必要(工業高校や職業訓練校などの活用) ●跡取りがおらず廃業を考えている事業所がある。起業しようとしている人とのマッチングができないか。 ●開発した新商品の広報支援や発表の場の提供があってもいい ●事業アイデアを持っている人と、それを具現化できるスキルを持っている人のマッチングはどうか。 ●ニュービジネスプランコンテスト(新たなビジネスアイデアの事業化を支援)はどうか。 ●鹿屋体大生が、卒業後鹿屋に残りたい人もいるが、就職先がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●鹿屋の「うり」である鹿屋自衛隊・鹿屋体育大学と、農村民泊を絡めた教育力等の向上につながるパッケージを作るのはどうか。 ●飲食店の情報収集手段がない。 ●観光とタクシー業者との連携が少ない。 ●スポーツ合宿等に来てくれた学校に対する支援があってもいいのではないか。 ●スポーツ合宿で来た人たちが、市内でお金を使ってもらえる環境を整えられればいいが... 	<ul style="list-style-type: none"> ●出産時の奨励金制度をつくるのはどうか。 ●結婚については、結婚したくないわけではない。出会いがあれば結婚したい。 ●「婚活イベント」ではなく、異業種交流会(飲み会)くらいが参加しやすいのではないか。 ●異業種交流をハッピーワークにさせてもいいのではないか。 ●結婚しても、式を挙げない人が増えている。婚活イベントで出会った場合等の条件をつけて、式を挙げる資金の援助はできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●鹿屋体育大学と、もっと意見交換して、コラボすべきではないか。 ●家族連れ(子ども)が楽しめる所がない。雨が降った時、子どもを連れて行くことができる施設がない。 ●市内の回遊性を高める仕掛けが必要ではないか。(拠点をつなぐ交通機関の整備など) ●高齢者などの買い物弱者対策を地元商店街が担ってはどうか。 ●におい対策は必要。まちに対するイメージが悪い。 ●現在の図書館の場所は分かりにくい。リナシティにあれば利用もしやすい。 ●アミューズメントパークのような施設があればいいと思う。
JA鹿児島きもつき (実施日:7/13)	<ul style="list-style-type: none"> ●カット野菜の加工場を建設予定だが、原料確保と原料貯蔵が課題である。 ●加工品として、かぼちゃ等のペーストを離乳食等に活用することも考えられる。 ●農家所得を増やすことが重要だが、農業は自然が相手なので収入が安定していない。 ●どの作物が儲かるかは、気候や病気の流行などに左右される面があるので一概に言えない。 ●さつまいもや牛肉は、味では全国的なブランドにも引けはとらないと思うが、メジャーになれていない。やはり発信力の差が大きい。 ●バラ農家の育成はどうか(産業用バラなど)。 ●農家の跡継ぎが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣市町に比べると、一通りの生活基盤は整っており、生活に不自由を感じたことがあまりなく、そういった意味では鹿屋市は魅力があるのではないかと感じる。 ●どこに住むか決める際、「学校」(規模など)が大きな要因となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●収入が環境(主に天候)に左右されやすい農業者は収入が不安定なことも多く、これは結婚生活や子育てを考える上で足枷となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●近所に公園など、子ども達の遊ぶ場所がない。 ●歩道がない狭い道路があり、小学生の登下校時など危ない。 ●交通手段が少ない。車がないと不便。 ●イベント時、リナシティの駐車場が足りない。城山公園駐車場に停めるとなると行く気にならない。
NPO法人 ローズリングかのや (実施日:7/14)	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事を探すときに、資格がないと就職の範囲が狭い。 ●自分で起業するつもりでないと、鹿屋では思うような仕事はない。 ●宿泊施設が少ない。貸し別荘はどうか。田舎をアピールし、自給自足、スローライフの生活を体験してもらうのはどうか。 ●鹿屋産のばらを育成し、加工から流通まで繋げていきたい。 ●お土産のデザイン・企画が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ばら・草花の流行を鹿屋市から発信したい。今は、流行を追いかけているので、鹿屋から発信できれば、来る人が増える。 ●ばら園のお客様から昼食(特に黒豚、黒牛)がとれる飲食店をよく聞かれるが、答えられない。 ●鹿屋⇄福岡市内間の直行バスを運行してもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子供向けの事業として、鹿屋市内に生まれた赤ちゃん向けにバラをプレゼントするのはどうか。 ●成人式等の会場には、ばらを配置(時期的にバラが咲かないという問題有)するようしてはどうか。 ●若者と高齢者が居住するマンションがあってもいい。若者は、相場より安く住むことが出来る代わりに、高齢者宅の声かけと買い物の手伝い等を行うようにしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●買い物をする場所がない。(洋服など)親戚など、市外から来た人を連れて行く場所がない ●体育大生が競技しているところを見学させてみてはどうか。 ●過疎地に若者が住むには、スーパーと、子育て環境が近辺で整っていることが重要。

VII - 2 意見交換会結果（要約）

団体名	しごとづくり	ひとの流れ	結婚・出産・子育て	まちづくり
<p>鹿児島銀行 (実施日:7/15)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●バイオマス発電に将来展望があるのではないか。メンテナンスや運輸業などで雇用創出も期待され、におい、河川水質保全などの解決の糸口になるのではないか。 ●土地があるので、小さい農家を一つにまとめて、欧米のような大規模農業をやってみたらどうか。生産効率も上がる。(→生産基地化) ●道の駅はあっていいと思う。道の駅で、単に農産物売るだけでなく、売物(加工品、惣菜など)、レストラン、営業時間など工夫すべき。 ●自衛隊を物流に生かせないか。 ●鹿屋はPR力が弱い。 ●泊まってみたいと思うような宿泊施設がない。 ●利子補給より補助金と連携した融資の方がよい。 ●鹿屋で伸びている産業は太陽光関係。飲食店の起業もあるが、飽和状態。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ランドマーク的なものがない。 ●鹿児島県を逆さまにすると、地形が青森県と一緒に。青森と提携し、青森展をすれば話題になるのでは。 ●人を呼び込むことも重要だが、都心部に出店する人を応援する制度があってもいいのでは。鹿屋の食材等を使うことを条件に、都心部に出店した人へ補助金をだすなどして、食材を販路に乗せることも重要ではないか。 ●交流人口の増加を目指すなら、農業体験などを組み合わせた滞在型の活動が良いのでは。種まき、収穫、加工までセットにして定期的に来てもらい、普段の世話は農家にやってもらうのはどうか。収穫したものを送ってもいい。リタイア組は1か月の長期滞在、働いている人は3日程度の短期滞在が望ましい。空き家対策も兼ねられる。 ●一度県外で就職したら、帰ってこようとしても仕事がなく、Uターンできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事と子育ての両立で大変なことは、食事作り。子どもの栄養のことを考えると適当にできない。仕事帰りに地元食材を使った手作り品(煮しめなど)があったら助かる。 ●学校の手提げかばんを手作りしている母親がおり、出来が良い。母親が作ったものを販売できるところがあったらいいと思う。道の駅で販売してもいい。 ●鹿屋の食材を使った離乳食はどうか。 ●産科医が足りないという話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●鹿屋のイメージとして、まず匂いが臭い。 ●車社会で、まち地区は素通りされる。 ●食はずばらしいが、遊ぶところは全くといっていいほど何もない。 ●リナシティについて、何をするとどこか分からない。スターバックスでもあれば行くが…。研修室の利用料が高い。 ●鹿屋はわざわざ遊びにくるようなところではない。
<p>鹿屋高等学校 (実施日:7/16)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒はほぼ進学だが、将来の仕事は鹿屋を希望している生徒も多い。 ●主幹産業である農林水産業の活性化をもっと図るべき。農業県でありながら、農業高校の定員割れは問題。 ●産官学連携による生産・流通の仕組み作りが必要。 ●水産業をやるには非常に良い場所である。 ●仕事による生きがい、やりがいを感じられるような仕組みづくりが必要。 ●畜産と農業が盛んなので、そのような職業の方たちが活躍(世界に売り出すなど)できる場があれば、高校生も憧れを抱くのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高速道路ができたことで人の流れが良い方向に変わったが、鹿屋への入りの流れは弱いと感じる。 ●大学で高い知識を得た学生の就職先としての受け皿が鹿屋にはない。せっかくの人材が流出している。公務員か教員しか働き先がないのが現状。 ●鹿屋をはじめ大隅半島には良い釣り場が多い。セールスポイントだが周知できていない。 ●テニスコート(最低でも16面)があれば、学生の合宿で交流人口の増加が見込める。 ●鹿屋市は他の地域と比べて小規模校が多い。その影響もあってか教育水準が低い傾向にあると感じる。 ●交通事情が悪いため、学校への送迎を親がしている現状がある。親の負担が大きいため、学区外への学生の流出もあるのではないかと。 ●県内の他の地域と比べて、人と人とのつながり希薄であり、お互いを認め合う機運が低いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事と子育ての両立には職場の理解が必要。民間企業は厳しいのではないかと。 ●里帰り出産が厳しいと聞いた。地元で安心して出産できる体制が必要。 ●兄弟で同じ保育園に入れず、別々の園を紹介される例が多いと聞いた。市で調整していただかないと、負担が大きい。 ●今年3月に入所決定(不決定)の通知を受けたが、もう少し早くできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道路脇に植栽されているバラは素敵だなと感じた。 ●美味しいお店がたくさんあるので、もっと県外にアピールすべき。 ●転動してきたとき、とにかく道が分かりづらかった。道案内が少なすぎて、初めての人には不親切。 ●お店もたくさんあり、住みやすいまちだと思う。 ●生徒たちは、「イオンができてほしい」と言っている。

VII - 2 意見交換会結果（要約）

団体名	しごとづくり	ひとの流れ	結婚・出産・子育て	まちづくり
大隅地域振興局 (実施日:7/16)	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅をつくれぬか。リナシティを道の駅にできないか。 ●競輪、競艇を真似て、競豚、競鶏などができないか。 ●在宅介護などの分野を充実させる必要があるのではないか。 ●シルバー人材センターがあるが、さらに高齢者が気軽に働ける場を提供できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●鳴之尾牧場や高隈山登山などの観光資源のPRをすべき ●鹿屋の匂いを観光資源として売り出してみては？ ●史料館、戦跡等の平和関連施設について、知覧に比べてPRが足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●希望する保育園に入れないことがある。 ●3月に人事異動が発表され、鹿屋に転勤が決まったが、4月から入れる保育園がなかったため、1年間市外(東串良)の保育園に預けた。異動がある人のための入園枠を作れないか。 ●産科医が少ない。充実できないか。 ●グランドゴルフ場は多いが、遊具のある公園が少ない印象。 ●共働きの場合、夫の協力なしには働けない。企業には子育てしやすい環境づくりに取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●都市圏に比べ、渋滞が少なく、買い物しやすい。日常生活をするうえでは住みやすい街である。 ●仲町アーケードが日中暗く感じるような場所がある。 ●シャッター商店街をどうにかできないか。 ●交通が不便(鹿児島市から学生を研修で受け入れる際、マイカー必須で苦労した) ●交通マナーが悪い ●大きな買い物をする際、適当な店がない。ショッピングモールのような店が鹿屋にあったらいい。
連合大隅地域協議会 (実施日:7/17)	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ合宿をサポート、プロデュースするような仕事があればおもしろいと思う。 ●新たな産業としては、カジノぐらいしかないと思う。 ●肉、野菜等の加工食品に力を入れて直売所を作って販売してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●サイクルシティを進める場合に、鹿屋は交通マナーが悪いので、どの程度できるか。 ●特に郊外において人口減が目立つが、「やねだん」は流入が多い。やねだんの豊重さんのような人がいないと、まちは活性化しないのではないか。 ●かのやばら園をカーナビで検索してもヒットしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●婚活イベントを行政が取り組むのは一概に良いとも言えない。 ●学童保育とは別に、地域で預けられる施設をつくってみてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●商店街に活気がない。活気があれば、人も来るし住むと思う。 ●住宅街などで道路が狭いところがある。 ●田舎の良さ(近所づきあいなど)がなくなっている。 ●税金が高い。
鹿屋市PTA連絡協議会 (実施日:7/21)	<ul style="list-style-type: none"> ●鹿屋市で仕事をしてもらうためには、鹿屋市で学べる環境をつくるべき。医療系の専門学校があってもいいと思う(例えばリナシティを医療・福祉の専門学校したらどうか)。鹿屋市では資格を取る学校がないので、みんな都市部の学校に出て行って資格を取っている。 ●鹿屋女子高に看護・介護系の専攻学科を設けたらどうか。看護専門学校とも連携して、資格取得ができればいい。これからの時代にあったカリキュラムに変えていくべき。 ●地産地消のバイキングや屋台村などをやれば、生産と販売の双方が強化されるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市出身の女性が、県外から婿を連れて帰ってきた場合(Uターン)、家を建てる際の助成等を行ったらどうか(⇒里帰り定住支援制度)。 ●Iターン向けセミナーみたいなものがあるといい ●ばら園単体では限界があり、宿泊場所等がないので集客力が弱い。 ●Iターン希望者に鹿屋市が選択肢になるかという疑問。始良市や霧島市の方が立地的に魅力的。 ●自然を生かしたテーマパークはどうか。 ●子どもをメインターゲットにした飲食店はどうか。そうすれば大人もついてくる。 ●黒豚等は高いイメージがあるので、鹿屋市内では安く食べられるようにすれば、人は来ると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て等の支援策は、他の自治体に負けていると思う。 ●24時間対応の産科がないと出産に不安を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●長崎市のランタンフェスタや宮崎のプロ野球キャンプなど、まちをあげて行っている印象を受けるが、鹿屋市の場合、夏祭りにしてもそのときだけで、始まる前も終わってから余韻を感じられない。 ●車が渋滞しないことが鹿屋市の魅力にならないか。

VII - 2 意見交換会結果（要約）

会議名	鹿屋市の創生に関する意見交換会【福岡】
日時場所	日時:平成27年7月27日(月)14:00~16:45 場所:ホテルクリオコート博多 4階 クリスティーナ
出席者	参加者:9名 市:福井副市長、尾原公室長、永山、橋口、壺崎

結果概要(主な意見等)

鹿屋の売りは何だと思えるか？

- 「だっきしょ」などだと思えるが、アピールの仕方、いかにしてマーケットにPRしていくかが重要。(山下)
- 売りがありすぎるのでは。どうブランド化するかだと思える。パッケージにしてもワンポイントずつでも統一したシールを貼るなどまとめていくことが必要。ばら園、戦争遺跡など観光地と相乗効果を図っていくべき。(大塚)
- 流通に経費がかかるのではない。(本房)
- 運送費はネックである。カンパジャックではないが市場に近い福岡からせめていけば。(大塚)
- 光るものが一つあればいい。ばら園も鹿屋市だけではない。一番手のものが必要。これまでの媒体はテレビであったが、今はSNS、インターネットが主である。(宝来)
- 青果を取扱っているが値段の違いは、やはりブランドである。同じ人参でも長崎のものが高い。生産物はあるがブランドになっていない。きっかけが必要。観光であれば田舎であることをアピールすればいい。宿泊施設がないのもネックである。(山下)
- 車がないとどこにも行けない。知り合いの母親が寿から池田病院まで父親の見舞いに行くのが一日がかりだと聞いた。(進藤)
- 外国人が行きたい場所は京都が第一位である。案内や看板、wifiといったインフラの用意も必要。特に英語は必要である。海外に行くがアクセスが違う。コンパクトシティになっており街が凝縮されている。面積が広すぎる。街としての要素がばらばらに分かれている。(吉岡)
- 人を増やすための施策であれば産業しかない。(本房)
- 田舎の体験や良さは都会の人にとって魅力である。当たり前のことが楽しかったようだ。(吉村)
- 鹿屋のアンテナショップはないのか。鹿屋の情報がとれるところが必要では。(吉岡)
- アピールが足りない。ホテルを無償譲渡で受け、固定資産税を五年間免除してもらった。想いを地元に戻元したい人は多いと思う。そういう人にアプローチをすべき。(本房)
- いろんなものがありすぎて、すべてアピールしようとして、何を聞いていいかわからない。
- 地元の人には悪いところに目が見つかるが、自分たちから見るとこんなものもあるという感じである。戦争遺跡もあり、やり方はいろいろあるのではない。ブランド化は必要。(大塚)
- ブランド化、宣伝、アピールは重要。パッケージにしてやれば・・・(山下)
- ばら園に行くが、リピーターにはならない。ばら園でカンパチが食べれるなど道の駅のようなものがあれば、自然のものが安くで手に入る。体験ができて子供たちが遊べる大きな遊具があれば・・・景色がいいので癒しにもなる。(吉村)



鹿屋体育大学があるがスポーツから何か仕掛けられないか？

- 自転車も良いが一日だけのイベントではダメである。普段からの活動が必要。そうすれば大会以外でも人は来る。健康ブームでもありスポーツへの参加、関心は高い。(鳥越)
- 垂水から高隈まで自転車で帰った。桜島の灰が厄介である。ロードコースをしっかりと決めて常に掃除をやるぐらいでないと・・・(吉岡)
- 佐多岬などがありツーリングの人は多い。ゲストハウスとして廃校などを利用ではないか。安く泊まる場所があれば。そして美味しい食事ができればよい。(吉村)

VII - 2 意見交換会結果（要約）

会議名	鹿屋市の創生に関する意見交換会【東京】
日時場所	日時：平成27年7月29日（水）14:00～16:30 場所：都道府県会館 4階 404会議室
出席者	参加者：12名 市：市長、郷原政策推進課長、山口、北山、田畑
結果概要(主な意見等)	
<p>鹿屋・大隅の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全国で事業をやっているが、鹿児島・鹿屋は他県等と比べて閉鎖的。事業をやるにしても制約が多い気がする。(田野邊) ●ある程度、農畜産物にブランドバリューがあるがゆえに、他のものを受け入れがたい雰囲気がある。もう少し柔軟性が必要。(松尾) ●食材に関しては冴えているが、同じようなことをどこでもやっており、まとまりがない(例：カンパチ)。大隅という括りでやった方が力発揮できる。鹿屋がリーダーシップを取ってやるべき。(繁昌) ●鹿屋の特産物を聞かれても答えられない。ブランド化されたものがないので、「鹿屋の黒豚」などでブランド化を図って大々的にコマーシャルすべき。(前田) ●「鹿屋の特産物は？主産業は？」と聞かれたときに答えられない。おそらく、地元の人たちも同じではないか。若い人の移住を促進していくのであれば、まずは地元の人が地元のことを学習すべき。(米倉) ●「健康のまちづくり」を提案したい。例えば、1km＝10分のウォーキングを推進してはどうか。田舎なのに安全に歩く場所がない(東京のような歩道がない)ので、例えば上場公園に1周1kmのコースを作って、安全にウォーキングしてもらい、景色も楽しんでもらうのはどうか(健康とリゾートを結びつけて、人を呼び込む)。(米重) ●観光地としておススメできる場所が思いつかない。文化面について、鹿児島にこだわって地元で頑張っている音楽家もいるが、あまり評価されていないのが残念。(宮園) ●産業振興については、今ある産業の収益力をどう伸ばしていくか、ベンチャーを含めた企業誘致ということになると思う。(宮内) ●鹿屋といえばココという場所がない。「るるぶ」で鹿児島県の観光地ランキングを見たが、50位以内に大隅が入っていない。もっとブランディングを強化すべき。(宮内) ●移住施策について、若者・子育て世代にターゲットを絞ってきている自治体がほとんど。移住施策の柱は①情報発信、②仕事の紹介・マッチング、③地元の受け入れ意識の醸成、の3つ。どこの自治体も良いパンフレット、HPをつくってPRしているが、それだけではダメ。広く呼びかけるのではなく、ある程度ターゲットを絞って(地元を離れた大学生など)やるべき。また、地元の両親に就職情報を送るのも有効。(後藤) ●人を呼び込むためには、ブランドと強いメッセージ性が必要(永山) ●集客力の高いイベントとリンクしてPRした方が効率的。(中島) ●IT企業やデザイナーなどを誘致できないか。インフラさえ整っていれば、田舎でも仕事できる。(岡崎) ●魅力たくさんあるが、うまく情報発信できていない。産業がないと移住定住促進できないと思う。(米倉) ●鹿屋は第一次産業でいいと思う。ただ食べてもらうだけでなく、そこに至るプロセスを含めてストーリー性・メッセージ性を持たせるべき。鹿屋農高を大きくすることも、一つのメッセージ性になる。(永山) <p>鹿屋でブランディングできるものは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●鹿屋は日本でも有数の畜産のまちだと思うが、ブランドイメージはない。もし畜産を売りにするのであれば、鹿屋に行かないと食べられないものを作り、それを食べさせるところを常態化させる必要がある。畜産物はアピール性が高く、成功すると大きいがそれなりの覚悟も必要。(松尾) ●観光で来ても食べ物を紹介してくれるところがない。食に関して、一つに特化するよりも、総合力でPRした方がいいのではないか。(田野邊) ●鹿屋の飲食店には美味しい所たくさんある。しかし、都市部向けのアプローチの仕方(営業)が下手なので、思ったより評価が得られていない。都城や鹿児島などから食べにきてもらう仕掛けが必要。(繁昌) ●ブランドの考え方に「価格と質のバランス」がある。認知度も高めた後、実際行動してもらうためには、「価格と質のバランス」が重要となる。(永山) ●ふるさと納税に関して、鹿屋の両親を通じてアプローチしてみてもどうか。(米倉) ●英語特区などを生かして、教育や子育てをブランド化・差別化すれば、若い世代・子育て世代には良いアピールになると思う。 ●鹿屋で事業をやろうとしたときに、人材確保に不安を感じる。(田野邊) ●吾平山稜は大隅の宝。もっとアピールすべき。(田野邊) 	

Ⅶ - 2 意見交換会結果（要約）

結果概要(主な意見等)

その他

- 教育を全体的に底上げしてほしい。(宮園)
- 東京オリンピックまでの5年間は外国人観光客が確実に増えるので、大隅としてどうするのか、そろそろ考えないと対応が間に合わなくなる。(松尾)
- 移住相談イベント等を都市部で実施する場合には、近隣自治体や県との連携も視野に入れて検討すべき。単独では難しい。(後藤)
- 移住促進に関して、地元企業・農林水産業の方・商工会・金融機関と連携して、いかに地域に埋もれている求人情報を掘り起こして外に出していくかが重要。また、地元住民とも連携して、地元がどのような人材を求めているか把握すべき。(後藤)
- 地元から外に出て家族を持ったら、なかなか地元に戻れない。いかに地元の若者を定着させるかが大事。(前田)
- 首都圏の活動も広報かのやに載せて欲しい。(前田)
- 鹿児島のアンテナショップはあまり人が入っていない。商品パッケージが良くない。デザイナーとタイアップしてみてもどうか。パッケージ変えるだけでも効果はある。(岡崎)
- 豚ばら丼について、各店独自にやるのもいいが、統一性があつた方が競争も生まれていいと思う。そのためには、「鹿屋の豚ばら丼はこれでいく」というリーダーシップが必要。丼にすると油っぽいので若い人にはいいが、高齢者にはキツイ。ダシで食べる豚ばら丼なら高齢者も食べられる。(繁昌)



VII - 2 意見交換会結果（要約）

会議名	鹿屋市の創生に関する意見交換会【大阪】
日時場所	日時:平成27年7月30日(木)14:00~16:15 場所:大阪駅前第3ビル 17階 8号室
出席者	参加者:10名 市:市長、郷原政策推進課長、山口、北山

結果概要(主な意見等)

外から見た鹿屋、ふるさとへの思いについて

- 鹿屋の良いところは、良い意味で変わらないところだが、欠点でもある。(長田)
- 鹿屋には、森殿(もいどん)、田の神様など、おもしろい歴史自然がある。こういうものに光を当ててもおもしろいと思う。また、吾平山稜や高隈山ももっと生かすべきではないか。
- 交通が不便。もう少し高齢者に配慮した支援があってもいいのではないか。(藏ヶ崎)
- 鹿屋といえば体育大学。体育大学には良い施設があるので、全国のトレーナーやスポーツ選手がそれを目当てに来るような仕掛けをするべき。アスリート食堂もよく耳にするが、そこでアスリート食を学びたいという所までは至っていない。(中務)
- 会社経営で大事なことは従業員教育。ここ2年、鹿屋市内で実施されているのは、パソコン講座の1つしかない。鹿児島市、霧島市、熊本市まで出て行って研修(ISOやリスクアセスメントなど)受けている。(畑中)
- 人間関係が希薄になる中、鹿屋の人たちはとても親切。鹿屋を体験してもらうためには、地元の語り部みたいな人が必要ではないか。(篠原)
- 大隅の中では存在感あるが、全国から見たら特色見えにくいかなと感じる。人に話すときに、自衛隊と体育大学以外に伝えるものがない。(安山)
- 鹿屋に初めて行ったとき、遠いと感じた。アクセスは決してよくない。鹿屋でイメージできるものがない。観光地もない。広い台地は大きな財産だと思う。(柿窪)
- 大阪の人と鹿屋の話しをしても、9割強は鹿屋を知らない。食、ロケット基地、史料館など、もっとPRしてほしい。鹿屋単独では難しいので、大隅全体でPR、物産に取り組んで欲しい。(榊)
- 大隅は1つである。市政10周年を記念して、大隅サミットを開催したい。(中礼)
- 鹿屋の結束力は弱い。(中礼)
- 食糧基地であることを生かすべき。アンテナショップもいいと思う。(中礼)
- 大阪のがんこ寿司が鹿屋の米と紅はるかを使いたいという話しを農協に持っていったが、対応できないということで話しが流れた。大阪に比べて鹿屋の人はまじめだが、「私がやります」という強い気持ちが見えない。(畑中)
- 大隅の中では垂水の情報が速く伝わってくる。情報量が大事。かのやファンクラブをもっとマメに更新したり、もっとフランクな感じにしてもいいと思う。(篠原)
- 田舎のわりに宿泊施設の(価格)高い。(中礼)

鹿屋の売り、ブランディングできるものは何だと思うか？

- シラス台地が特性ではないか。サツマイモや落花生も「シラス台地の恵み」である。(上甫木)
- 落花生、ピーナッツ豆腐(上甫木)、ナミクダヒゲエビ(安山)、つわぶき館の味噌煮込みうどん、味噌饅頭(篠原)
- 大隅の良いものを一括して仕入れて売ってくれるところがあつたらいい(和歌山の「とれとれ市場」みたいなもの)。(篠原)
- 自然を生かしたスポーツイベントもいいと思う。(上甫木)
- 風光明媚なところに宿泊施設がない。高須、浜田をビーチリゾートに開発してもいいのではないか。(上甫木)
- 薩摩半島側に大隅半島の案内板を立てたらどうか。(中礼)
- 体育大学には選手をサポートするトレーナーを育成する場がなく、また資格を取る環境もない。もったいないという話しをよく聞く。(中務)
- 福岡からのバスツアーでサクラクレパスの工場見学があった。そういうのも良いと思う。(畑中)
- 色々ありすぎて的が絞れていない感じがする。(柿窪)
- 眺めのいいところもあるので、マラソン大会があってもいいのではないか。(安山)
- 自然をもっと生かすべき。(上甫木)
- 健康とスポーツと体育大学を絡めて何かできないか。(中務)

Ⅶ - 2 意見交換会結果（要約）

結果概要(主な意見等)

人や企業を呼び込むためのアイデアについて

- 企業等から進出の相談があった時は丁寧に対応すべき。(中礼)
- 仕事があれば、今すぐにでも鹿屋に帰りたい。(長田)
- 医療やトレーナーの専門学校があれば人は来る。(中務)
- エアメモは良いイベント。宣伝をうまくやったら、もっと人が来ると思う。(長田)
- 移住、観光など、目的によって必要な情報は異なるので、情報発信はきめ細かくやるべき。(安山)
- 大隅全体で捉えていけないといけないのではないか。(柿窪)
- 本土最南端、自然、食などを絡めて何か企画してほしい。人を呼び込むためには宿泊施設も必要。(榊)

その他

- 鹿屋では里帰り出産ができず、鹿児島市で出産する人が多いと聞く。(長田)
- 鹿屋は冷めている。大隅の他の自治体も含めて暖かみがない。(中礼)
- 人材育成、物流費、設備投資への支援をお願いしたい。(畑中)
- 広報かのやを県外出身者(ふるさと納税者など)に時期をみて送って欲しい。(中礼)

